



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年7月発行（第87号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

- ◎巻頭メッセージ：「油注がれたものは絶たれる」 エレミヤ
- ◎時代を悟る「エキュメニカル運動。クリスラム」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「油注がれたものは絶たれる」 by エレミヤ

本日は「油注がれたものは絶たれる」という題でメッセージしたいと思います。終末の日に聖霊が教会から絶たれてしまう、ということがらを見ていきたいと思うのです。

テキストは以下です。

ダニエル9:24 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。

9:25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。

9:26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たる

べき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。

9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現われる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

このテキストの中では、油注がれたものが絶たれることが書かれています。

<油注がれた者とは誰か？>

さて、ここで素朴な疑問ですが、油注がれたものとは、誰をさすのか考えてみましょう。この質問の答えはきくまでもないでしょうか、イエス・キリストです。イエス・キリストは、油注がれたものであり、この預言どおり、君主としてエルサレムに来たのですが、民により排斥され、十字架につけられ、絶たれてしまったのです。

「油注がれたものは絶たれる」 by エレミヤ

確かにこの預言はイエスキリストの生涯の中で成就したのです。さて、このことは事実なのですが、もう一つのことがあります。何をいつているのかというと、この預言は2重に成就する、と思われるからです。すなわち、この「油注がれたものは絶たれる」との預言はキリストの初降臨の日に成就し、さらにキリストの再臨の日に再度、成就する、そう思えるのです。

<終末の預言は2重に成就する>

多くの終末に関する預言は2重に成就するように思えます。たとえば、以下のエルサレムの宮の崩壊に関する預言がそうです。

マタイ24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

この宮の崩壊に関する預言は2重の預言であり、2度に渡って成就することを多くの聖書学者は語ります。すなわち、この宮の崩壊は1 主イエスの初降臨の時代に成就し、さらに2 終末の日に再度成就するのです。

そして、このことは確かにその通りであり、私たちは終末の日に再度、宮の崩壊を見るようになるでしょう。

<何故「油」注がれた者と表現されているのか？>

先ほどのダニエル書のテキストに戻ります。もう一度このテキストをよく見るとき気がつくことがあります。それは、イエス・キリストをさす呼称です。キリストを表現することばはいくつもあります。すなわち、神の小羊、

救い主、神のことば、世の光などです。このように多くの表現があるのですが、この箇所ではことさらのように、キリストをさして「油注がれたもの」と語られています。

聖書は神の知恵により書かれた書です。ですから、どのような小さなことばに関してもそこには神の知恵や意図があります。偶然ではないのです。神は「油注がれたもの」との表現を通して何を語ろうとされているのでしょうか？

<油注がれたものとは聖霊をさす表現>

聖書を読んでわかること、それは油とは、聖霊を指す表現である、ということです。以下を見てください。

1 ヨハネ2:20 あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、だれでも知識を持っています。

1 ヨハネ2:27 あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、——その教えは真理であって偽りではありません。——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。

ここに書かれている「聖なる方からの注ぎの油」とは明らかに聖霊をさす表現です。ですからこのことが理解できます。テキストのダニエル書の70週の記事の中で、「油注がれたものは絶たれる」という時、以下の2つのことが預言されているのです。

「油注がれたものは絶たれる」 by エレミヤ

1 初降臨の日にキリストが十字架につけられ、民の間から絶たれたこと

2 再臨の日に油注がれたものである聖霊が教会から絶たれること

この2つが預言されているのです。

＜聖霊が終末の日に教会から絶たれることは他でも預言されている＞

終末の日に聖霊が絶たれるなどということはにわかには信じがたいことばかもしれませんが。しかし、私たちがよくよく聖書を読むならこのことはいくつかの箇所を通して預言されています。たとえば、以下です。

2テサロニケ2:6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。

2:7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。

ここには聖霊が教会から取り除かれる日に関して書かれています。

ですからこの箇所を通して語られているのはこのような終末の日です。

油注がれた方、イエス・キリストは旧約の神の民であるユダヤ人の救い主として世に来られました。しかし神に逆らうユダヤ人たちは、彼を捕らえ、十字架につけて殺しました。油注がれた者、キリストは絶たれたのです。

同じく新約の神の民の終わりの日、教会時代の終わりに油注がれた方、聖霊は教会から追い出され、絶たれるのです。

同じ歴史が2度繰り返されるのです。

教会が背教して聖霊を追い出す？そんなことは信じられない、という人もいるかもしれませんが、聖書は背教に関して明白に以下のように述べています。

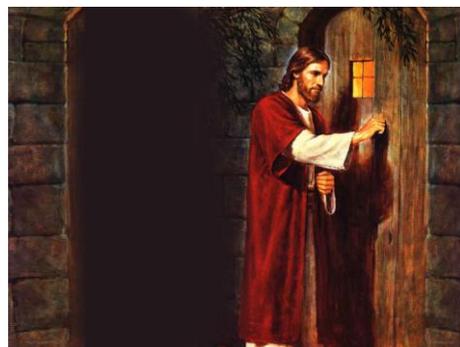
2テサロニケ2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

ここには明確に終末の日に教会やクリスチャンが神や聖霊に逆らい、背教することが記載されています。油注がれたものである聖霊が絶たれる日が預言されているのです。

＜追い出されるキリスト＞

このこと、油注がれた者である聖霊が教会の中から追い出されることは以下の黙示録の箇所でも預言されています。

黙示録 3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。



家のドアの外で叩くキリスト

「油注がれたものは絶たれる」 by エレミヤ

この箇所では、キリストが神の家である教会から追い出される日が来ることが預言されています。7つ目の教会、終末の日の教会であるラオデキヤの教会において、ついにキリストの霊である聖霊は神の家から追い出されてしまうのです。

これこそ背教であり、油注がれたものが絶たれることなのです。もう一つ見ましょう。

黙示録7:1 この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押え、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。

ここでは、風が抑えられ、吹きつけないようにされていることが描かれています。風とは聖霊をさす表現です。以下でも風は聖霊をさす表現として使われています。

黙示録3:8 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

ですから、「風が抑えられ、吹きつけないようにされ」とは、すなわち、聖霊が働かないように取り除かれることをさすのです。もう一つ見てみましょう。

黙示録 16:12 第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かかれてしまった。

ユーフラテス川とは旧約聖書において神の民、イスラエルと異邦人の境界線として流れている川です。それは新約においてはたとえの意味合いがあり、新約の神の民であるクリスチャンと未信者との間に流れる川、聖霊の川をさすたとえです。ここでは、ユーフラテス川が枯れる、として教会から聖霊が追い出されることを別の表現で語っているのです。

<洪水が来る>

さてこのようにして油注がれたもの、聖霊が教会から絶たれた後、教会はどのような運命を迎えるのでしょうか？

もう一度冒頭のテキストを見てみましょう。

ダニエル9:26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。

ここには、「やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。」として、来るべき君主、すなわち反キリストが聖所すなわち、新約の神の宮である教会を破壊することが描かれています。このことを2テサロニケ書は別の表現で以下の様に語っています。

2テサロニケ2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

ここには、反キリストがキリストを追い出し、新約の神の宮、すなわち教会の真ん中に座を設け、自分こそ教会の神であると宣言することが預言されています。このような冒涇の日が来る前にどのようなすさまじい教会の背教が行われるのか、ある程度はこの記事から推察されます。

「油注がれたものは絶たれる」 by エレミヤ

教会が晴れて反キリストを神の座におくその前にはまず、ナザレのイエスへの徹底的な冒瀆や不信や、非難が行われるのでしょうか。ナザレのイエスの十字架や復活などは神話であり、この男はペテン師である、との評判が教会の常識になるのでしょうか。

「その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。」

この日、悪霊の洪水が教会を覆うことがここで預言されています。すなわち、教会はその背教のゆえに聖霊を追い出し、その代わりに悪霊のリバイバルの洪水に席卷されるのです。この日はあの日すなわち油注がれた方、キリストが十字架で絶たれた日の再現です。

あの日、背教し、キリストをののしる旧約の神の民は油注がれた方、キリストを十字架につけろ、と叫びました。そして、その代わりに極悪人バラバの解放を望んだのです。このことは未来に起きることへの預言であり、語り掛けです。すなわち、終末の日にもこのことは再現し、人々は油注がれた方、聖霊を追い出し絶ちます。その代わりに反キリストを教会の王座に迎え、さらに悪霊の洪水、悪霊リバイバルを教会に迎え入れるのです。

背教の教会が悪霊の洪水で席卷される、それは遠い未来のことではありません。今このことはすでに起こりつつあります。今、ペンテコステ系を始めとする教会で行われているベニーヒン、ビルハモンなどの器のリバイバルは悪霊のリバイバルなのです。

＜十字架は再現する＞

教会が背教し、キリストを否定するようになる？そんなことは信じられないという人がいるかもしれませんが。しかし、終末の日にキリストの十字架が再現することは黙示録が明示します。

黙示録11:8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。

ここに「油注がれた方」である主が再度背教の教会で、十字架につけられることが明示されているのです。肉体をもったキリストは今の教会には存在していません。ですので、この日、十字架につけられるのは、油注がれた方、聖霊であることがわかるのです。

その日、背教し、神の目にはソドムやエジプトのようになってしまった教会において、キリストとその霊である聖霊に対してあらゆる冒瀆が行われます。イエスキリストの復活は神話であり、非科学的な嘘であるとされます。また、復活や、再臨を信じるクリスチャンは狂信的であると非難されます。また、聖霊は悪霊呼ばわりされ、教会から追放されます。

そうです、かつての日のカルバリの十字架が再現し、油注がれた方は再度、背教の民の間から絶たれるのです。このことを預言し、ダニエル書は「油注がれたものは絶たれる」と語っていることを知りましょう。—以上—



再び十字架につけられる油注がれた主

時代を見分けなさいと主イエスは言われました。では現在ほどのような時なのでしょう。

2017年はルターの宗教改革500年であり、記念行事が世界中で行われています。ルターゆかりの地であるドイツでも公式行事が始まりました。この5月には、宗教改革を記念したドイツプロテスタント協議会が開催する「キルヘンターク」がベルリンと、ヴィッテンベルグで行われ世界中から宗教を超え多くの人々が集まりました。メルケル独首相と、オバマ前米大統領、メリンダ・ゲイツ氏(ビル・ゲイツ夫人)も出席しスピーチし、また、カトリック、イスラム教、ユダヤ教など多くの宗教指導者たちも出席しスピーチしています。そして、この集まりの内容は、宗教改革記念でありながら異教的エキュメニカルなものでした。

今現在、ローマ法王とリック・ウォレンをはじめとしたプロテスタントの有名な指導者たちが交流し、カトリックとプロテスタントのエキュメニカル運動は大きな広がりをみせています。宗教改革ゆかりのドイツにおいて、5人に1人がカトリックとプロテスタントの合同を認めているという統計もあります。カトリックはマリヤを共同の贖い主とすることをはじめ、全く聖書的ではなく本来プロテスタントとは相いれないものですが、エキュメニカル運動は、ますますひろがっています。しかしエキュメニカル運動はそれだけでは終わりません。現在、異教とのエキュメニカルも静かに進行しているのです。それは、我々の気が付かないうちに粛々と進んでいるのです。

各宗教が対立するのではなく、互いに認め合い寛容が必要であるということは、人道的であり、非常に平和的であり良いことに見えます。その陰に隠れて、異教間のエキュメニカルは進んでいます。その中の一つが「クリスラム」というものです。クリスラムとはキリスト教とイスラム教とを混ぜ合わせた働きです。同じアブラハムから出ているという前提で、キリスト教徒とイスラム教徒は同じ神を礼拝していると考えているのです。

ローマカトリックも1985年に当時のヨハネパウロ法王がアッラーを聖書の神と認めています。現在の法王フランシスは、数多くイスラム教徒との合同礼拝をしています。また、2015年マンハッタンのセント・パトリック教会の礼拝において、「キリストの名」によってではなく「すべてに慈悲深い全能の神」と言う名で祈りました。慈悲の神と言う呼び名は、イスラム教の呼び方です。

ローマ法王のみならず、多くのプロテスタントの有名な指導者たちも同じく、相互理解の名の元、イスラム教との合同礼拝を行っています。彼らもまた、イスラム教徒とキリスト教徒の神は同じであると考えているのです。また、アフリカでは、イスラム教とキリスト教が徐々に同化している動きがあると言われていています。ナイジェリアでは、ほかのアフリカ諸国と同様イスラム教徒とキリスト教徒の暴力が増加を経験し、宗教的な解決策としてイスラムとキリスト教の合同の運動が進んでいます。

クリスラム運動というものが行なわれ、イスラム教徒もキリスト教徒も同じ神を礼拝しているという認識のもと交互に礼拝が行われているというのです。

現在、多くのクリスチャンは、キリスト教とイスラム教の神は同じであるととらえています。では、それは真実なのでしょう。キリスト教の神とイスラムの神は同じ神と言えるのでしょうか。同じであるという考え方に対して警鐘を鳴らしている聖書的な人々がいます。

The beretan callでMcMahon氏は歴史的に見た時、ムスリム以前のムハンマドのクレイシュ族が崇拝していた多くのアラブの偶像神の中での最高位がアッラーであると述べています。そしてそれを主神とすることで、ムハンマドが一神教の道を開いたと語っています。アラビアで発見された考古学的な証拠から、イスラム宗教の源が月神の崇拝であることが実証されており、例えば、三日月は、シュメール人とバビロニア人の時代から、キリストの時代までは月神の象徴でありました。イスラム教徒の断食の時間であるラマダンが三日月の時にはじまり、終わるのは偶然ではないのです。黒い石にキスしたり、メッカに向かって祈ったり、寺院を回ったり、サファとマルアの丘の間を走るなどは、イスラム以前の月神の儀式や偶像崇拝の儀式のものであり、イスラム教の儀式はこの影響を受けていると述べています。

そうであるならば、イスラム教の神はキリスト教と全く異なるルーツであると考えられるのではないのでしょうか。また、キリスト教の父なる神とイスラムの神には決定的な違いがあります。マタイ3：17に「また、天からこう告げる声が聞こえた。これはわたしの愛する子、わたしはこれを

喜ぶ。」とありますように、父なる神には、御子イエスがいます。しかしアッラーには子は存在していません。その主権の中に子なる神は存在しません。これは、致命的な違いでしょう。

これらのことを踏まえるなら、キリスト教徒とイスラム教徒は同じ神を信じているというのはいえぬことではないでしょうか。また合同に祈るということも不可能でしょう。そしてもし合同に祈るなら、その祈りはどこに向かっているのでしょうか。救い主キリスト抜きでの信仰は真理から外れて、もはや別の異教の宗教に変貌しているのではないのでしょうか。異なった福音について使徒パウロは警告しています。

ガラテヤ1：6～8

私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。

ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。

しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。

まさに今、かき乱す者がキリストにある福音、真理をゆがめている時代なのです。時を見分けなければなりません。



ローマ法王とイスラム教徒

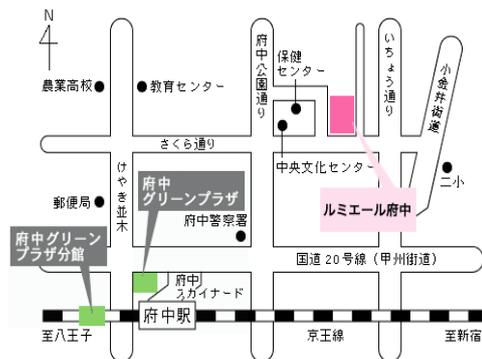
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>